

東京オリンピック・パラリンピック

Muraho!

ムラーホvol.2

=応援しよう ブルンジ選手団=

Muraho(ムラーホ)とは、ブルンジの言葉で「こんにちは」の意味です。

このコーナーでは、下妻市がホストタウンとなるブルンジ共和国について、下妻市オリンピック・パラリンピック推進員の塚越貴子さんが、毎月少しずつ紹介していきます。

ブルンジってどんな国?

皆さん、アフリカは暑いと思いませんか?ブルンジは赤道に近いのですが、国の平均標高が1,500mと高いため、平均気温24度(最低18度~最高29度)と年間を通じて過ごしやすい気候です。

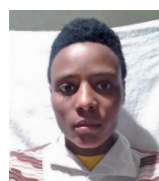
今月の選手~みんなで応援しよう



ニコビメゼ・レミー選手
(NIKOBIMEZE Rémy)
パラリンピック男子陸上1,500m
他出場予定
1989年12月10日生まれの32歳。ニコビメゼ選手は2008年の北京オリンピック男子5,000mで5位の成績を収めました。



ニヨンサバ・フランシーヌ選手
(NIYONSABA Francine)
オリンピック女子5,000m出場
予定
1993年5月5日生まれの27歳。ニヨンサバ選手は2016年のリオデジャネイロ・オリンピック女子800mで銀メダルを獲得。ブルンジ人では2番目のメダリスト、女子では初のメダリストです!



ニヨムクンジ・フランシーヌ選手
(NIYOMUKUNZI Francine)
オリンピック女子5,000m出場
予定
1999年8月1日生まれの21歳。ジュニア時代から国際大会に出場する実力の持ち主です。

今月のキルンジ語~みんなで覚えよう

今月もキルンジ語を紹介します。

- ・ Amahoro(アマホロ) : 元気?
 - ・ Amahoro(アマホロ) : (答える時)元気で。
- Amahoroには他にも「平和」という意味もあります。

子育て支援 子育て支援課 ☎45-8120 FAX30-0011

家庭的保育事業「小友家庭保育ルーム」がスタートしました

特に待機児童が発生しやすい低年齢児の保育を充実させるため、1月から家庭的保育事業「小友家庭保育ルーム」が開設されました。

家庭的な雰囲気の中で、少人数の乳幼児(0~2歳児)をお預かりするため、きめ細かな保育を行うことができます。また、隣接の「小友幼稚園」が連携施設になっていますので、集団の中で過ごすという経験もできます。入所の申し込みは、市役所子育て支援課までお願いします。

施設名	小友家庭保育ルーム
所在地	下妻乙269(小友幼稚園敷地内)
連絡先	☎44-2810
園児の定員	5人
開園時間	午前7時30分~午後6時30分
休園日	土・日・祝日



小友家庭保育ルームの湊田先生(左)と中島先生(右)

表敬訪問 環境保全功労者表彰の報告がありました



「花と一万人の会」(飯島順一会長・会員23人)は、「環境保全功労者」として茨城県から表彰されました。これに伴い、1月14日、同会の飯島順一会長、大内修副会長、須藤洋一副会長が菊池市長を表敬訪問しました。

同会は、平成3年9月に設立。鬼怒フラワーラインを含む水辺の楽校にて、河川美化などの活動に取り組んでいます。長年の環境保全活動の功績により、今回の表彰となりました。

飯島会長は「次世代を担う子どもたちとの活動が認められた結果だと思います」と話していました。

ごみ組成調査の結果から見てきたもの

ごみの分別・リサイクルにご協力を

市では、今後の基礎資料を得ることを目的に、市内のごみ集積所を無作為に抽出し、家庭から出されているごみがどの程度分別されているかを分析する、ごみの組成調査を毎年1回実施しています。令和2年11月に実施した調査結果は、次のグラフのとおりです。

■ごみ組成調査結果 不燃ごみに約半分もの資源物が混入

令和2年度の調査の結果、リサイクル可能な資源ごみの混入割合は「可燃ごみ」では全体の14.0%、「不燃ごみ」では全体の47.6%で多くのリサイクル可能なものが含まれていました。資源となるものをごみとして捨ててしまえば、焼却・埋め立て処分となってしまいます。

資源ごみとして排出することで、市指定ごみ袋を必要とする家庭ごみを減らすことができ、また、地球資源・地球環境の保全につながります。市で回収していない食品トレーや卵パックなどもスーパーなどの民間事業者でリサイクル資源として回収しているものもありますので、そちらについても積極的にご活用ください。

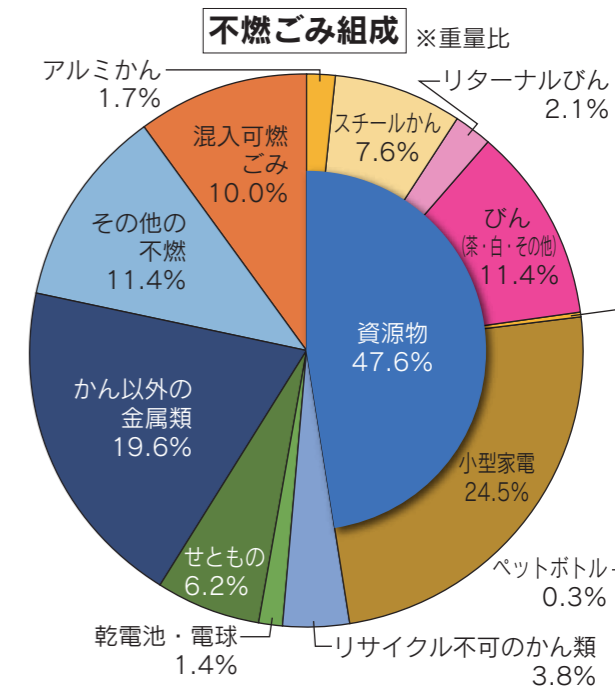
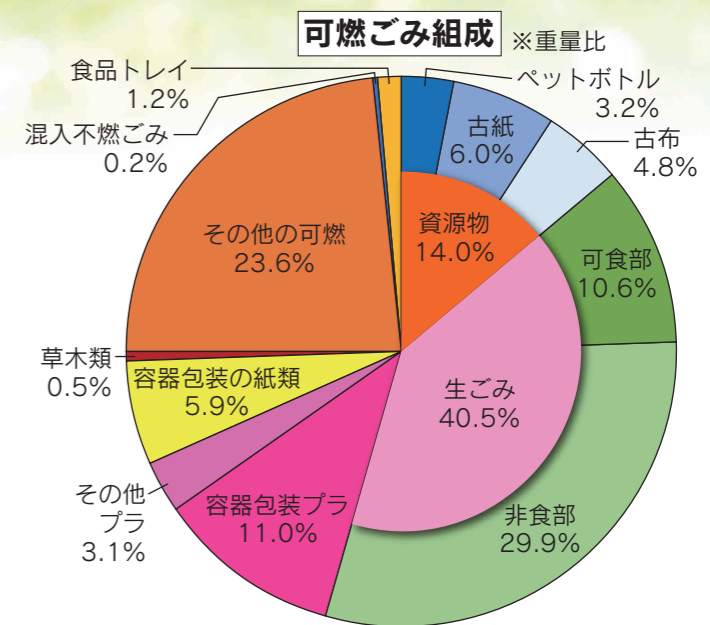
また、「不燃ごみ」では、可燃ごみや有害ごみの混入が見受けられました。市では、このようなルールを守られていないものがあつた場合には、ごみ袋に黄色の【回収できませんシール】を貼付し、分別や正しい排出方法の徹底を推進しています。

■生ごみの4分の1が食品ロス

今年度の調査では、生ごみを可食部(食べられる部分)と非食部(食べられない部分)に分けて調査を試みました。その結果、生ごみ全体の4分の1、可燃ごみ全体の1割が可食部という結果となりました。本来食べられるのに捨てられる食品を食品ロスといいます。食品ロスが生じることは、食料生産に費やされた膨大な量の資源が無駄になり、さらに食料を生産するために発生した温室効果ガスもまた無駄に排出されたことを意味します。食品ロスの削減は、日本の食糧事情と地球環境の改善につながります。

食品ロスを減らすためには、①必要以上に購入しない、②無駄なく食べきる③賞味期限が過ぎてみすぐ捨てないことを心掛けましょう。

※賞味期限は「品質が変わらずにおいしく食べられる期間」です。この期限を過ぎてみ、すぐに食べられなくなるわけではありません。色やにおい、味などをチェックして異常がなければ、まだ食べることができます。ただし、一度開けてしまった食品は、期限に関係なく早めに食べるようにしましょう。



環境省 食品ロス削減啓発キャラクター すぐたべくん